

「本人の意向」を最優先にした 病院との地域連携、地域のチームに学ぶ

日時：2020年12月8日(火)13:00－15:00

オンライン会議システムを利用して開催します

講師：秋山正子 氏

(株)ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 統括所長, 暮らしの保健室 室長
NPO法人maggie's tokyo 共同代表・センター長

「本人の意向を大切にすること」はあたりまえのように言われます。しかし、実際はどうなのでしょう？ 家族の意向、医療者の意向が優先になっていることはないでしょうか。

「治療はしたくない。病院へは行きたくない。家で死にたい」と希望した末期がんとされる方は、看護師の行う「聞き書き」に少しずつ心を開き、在宅チームのケアを受け入れ、自分の希望を叶えることができました。また、がんで余命数か月と診断を受けた方は、過去のイベントで訪れたことのある「看護小規模多機能型居宅介護を使って最期を迎えたい」と希望し、すぐに大学病院から自宅へ戻り、地域資源を活用しながら残された時間を家で穏やかに過ごすことができました。今回は、コロナ禍の状況で、がんの末期状態にある本人の意向を最優先にした病院との地域連携の工夫や、地域のチームの動きについて学びたいと思います。

<講師プロフィール>

秋田県出身。1973年聖路加看護大学卒業。産婦人科病棟にて臨床経験後、看護教育に従事。1992年より訪問看護に携わる。2001年株式会社ケアーズ設立。白十字訪問看護ステーション・白十字ヘルパーステーション統括所長として現場を訪問する傍ら、介護サービス事業者協会や地域看護業務連絡会の委員を務める。また看護学部非常勤務講師、30年後の医療の姿を考える会会長、NPO法人白十字在宅ボランティアの会理事長。

著書に「在宅ケアの不思議な力」「在宅ケアのつながる力」「つながる・つくりだす・ささえる在宅現場の地域包括ケア」(医学書院)など。患者や高齢者または、障がい者など社会的に不利な立場にあり、援助を必要としている方々のケアのために特別な努力をされた人に贈られるHealth Society 賞受賞(平成23年度)。フローレンス・ナイチンゲール記章受章(令和元年)

参加費：無料

申し込み：お問い合わせ先へ12月6日までにe-mailをお願いします。(所属、氏名を明記)
お申込みいただいた方にZoomのURLをお知らせします。

お問い合わせ：三重大学大学院医学系研究科看護学専攻がん看護学分野(坂口美和)

e-mail miwasaka@nurse.medic.mie-u.ac.jp